

インターバンクの声（2017年9月4日）

注目された8月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が予想を下回る15万6千人増に留まり、失業率も0.1%上昇して4.4%となった。この結果に発表直後のドル円は110円を少し上回る水準から109円50銭台まで円買い・ドル売りが進んだ。平均時給の伸びも期待外れでユーロも急伸したことからドル売りがさらに強まるのではとの見方も強くなっていた。

ところが109円台中盤では意外なほどドルの買い戻しが強く、あまり時間を置かずに110円ちょうど前後まで上昇した。米金利が直ぐに下げ止まったことや9月のFOMCでFRBがバランスシートの正常化に動き出すことを決めるには十分に強い雇用環境であると受け止められたことなどが背景だったようだ。

この後、8月のISM製造業景況指数も予想を大幅に上回る内容だったことから110円台前半でニューヨーク市場を終えていたが、北朝鮮の9/3の核実験実施で週明け未明のオセアニア市場では再びドル売りになってしまった。108円台に差し込むまでもなく109円台前半ではドル買い需要が高いとの見方も強いが、地政学リスクが再び高まっており、ドルが反発すれば直ぐに利食いも入って来そうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。